

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立桐ヶ丘高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、副校長 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長（2名）、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任、進路指導部主任、総務部主任、教育相談部主任、1年次主任、2年次主任、3年次主任） 計11名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学教授)、保護者代表、区教育委員会、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、区教育相談センター係長、近隣児童館館長、特別養護老人ホーム施設長、区地域振興室長 計11名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催について
年度当初に6月25日（木）、10月22日（木）、1月21日（木）の3回を年間行事予定に位置付けたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から書面開催とした。第1回は開催月日を変更した。
第1回 令和2年7月9日（木）、内部委員11名、協議委員11名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
資料による令和元年度の学校経営報告、令和2年度の学校経営計画の説明。各分掌の令和元年度の活動のまとめと令和2年度の重点課題及び業務についての説明。
郵便による協議委員の意見及び提言の把握。
第2回 令和2年10月22日（木）、内部委員11名、協議委員11名
資料による今年度の教育活動の報告、説明。
郵便による協議委員の意見及び提言の把握。
第3回 令和3年1月21日（木）、内部委員11名、協議委員11名
資料による学校評価アンケートの集計結果の報告及び分析の説明。
郵便による協議委員の意見及び提言の把握。次年度に向けた方向性の確認。
- (2) 評価委員会の開催について
第1回 令和2年10月22日（木）、内部委員11名、協議委員11名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析。
今年度の学校評価アンケート原案の検討。
郵便による協議委員の意見及び提言の把握。
第2回 令和2年11月11日（水）、内部委員11名、協議委員6名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 令和2年1月21日（木）、内部委員11名、協議委員11名
資料によるアンケート集計結果の分析・考察、課題の説明。
郵便による協議委員の意見及び提言の把握。次年度に向けた方向性の確認。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・11月 全校生徒 対象：576人 回収：361人 回収率：64%
 - ・12月 保護者全員 対象：576人 回収：262人 回収率：45%
 - ・12月 地域・住民 対象：160人 回収：86人 回収率：54%
 - ・12月 教職員 対象：48人 回収：48人 回収率：100%

(3) 主な評価項目

- ・生徒 ①学校の仕組みや教育活動 ②学校生活 ③学校生活充実の要因
- ・保護者 ①学校の仕組みや教育活動 ②学校生活
- ・教職員 ①学校運営 ②学校生活 ③生活指導 ④進路指導 ⑤教育相談 ⑥健康・安全
⑦特別活動 ⑧保護者・地域との連携、開かれた学校づくり
⑨ライフ・ワークバランスの推進

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・生徒は基礎基本の身に付く授業や実習・体験をととした学習と各系列の授業など学校の仕組みや教育活動について90%以上が肯定的な評価をしている。その一方でより高い水準の学習を求めている生徒もいる。資格取得や検定、ボランティア活動への取り組みは、昨年と比較して若干の改善は見られるが、まだ低い状態が続いている。
- ・生活指導は、「桐ヶ丘マナー10箇条」を心掛けて生活している生徒が80%弱であり、保護者の基本的な生活習慣が身につけていると肯定的な評価は70%と減少した。
- ・新たに設定した「進路や生き方について考えている」の設問には、生徒が78%、保護者は約90%と保護者の肯定的な評価割合が高い。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

- ・中学校までに不登校を経験した生徒が過半数であるなど多様な背景をもつ生徒であるが、一人一人の生徒の状況に応じた学習指導と生活指導を行い、高い割合で肯定的な評価を受けている。しかし、少数であるが課題を指摘する意見があり、生徒・保護者の満足度をより高めるための改善に取り組む。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価への反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒・保護者の「入学して良かった」「入学させて良かった」についての肯定的な評価は、生徒が87% 保護者は94%であり昨年と変わらず高く、本校の教育活動が理解され支持されている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・1年次から卒業年次までの進路希望の経年的調査を基に、進路意識を持たせ粘り強く挑戦させながらキャリア教育を更に充実させる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・生徒の実態をより正確に把握し、自己肯定感を育みながら個に応じた教育を更に推進するとともに、キャリア教育の充実に努める。

(2) 学習指導

- ・少人数授業を生かした指導内容・方法の改善充実、ICT機器の活用体験的学習等で意欲を高め出席率を高める。

(3) 特別活動

- ・部活動の加入を奨励し、主体的に行動する力と他者と協力する気持ちを育成する。

(4) 生活指導

- ・桐ヶ丘マナー10カ箇条を推進し、将来社会人として身に付けるべき規律規範の指導を充実させる。

(5) 進路指導

- ・早期から情報を提供し長期的展望を描かせ、学校生活・授業に主体的自立的に取り組ませる。

(6) 健康・安全

- ・生活習慣病の未然防止・伝染病の罹患防止のため、家庭・関係機関と連携して指導する。
- ・パーソナルファイルやアセスメントシートを使った個別対応により、教育相談機能を更に充実させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
9	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
無し。

8 その他

- ・配布と回収のタイミングを調整し、アンケート回収率を高める。